ぼんやり

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ぼんやり

【Ｎコード】
Ｎ２５１３Ｍ

【作者名】
川崎ゆきお

【あらすじ】
「どうも最近ぼんやりしてね…」

「どうも最近ぼんやりしてね…」
「お齢では？」
「ボケるほどの齢じゃないよ」
「では磨かれて丸くなられたのでは」
「齢をとると余計に頑固になるようだ。僕にもその傾向がある」
「お体が悪いとか？」
「頭が悪くなったのかもしれんな」
「ご冗談を」
「頭が冴えんのだよ」
「今日の講演は大丈夫でしょうか」
「いつも通りに話せばいいんだろ」
「はい、よろしくお願いします」
「昔はね、もっと熱心に語れたんだけどねえ。今は話していても楽しさがない」
「御大の顔を見るだけで、皆さん喜んでくれますよ」
「見世物だね」
「それは……」
車は会場に着いた。
「どうも最近ぼんやりしてねえ……」
御大の講演が始まった。
「ボケるほどの齢じゃないんだけど。頭が冴えんのですよ。皆さんはそんな経験ありませんか？」
秘書は驚いた。さっきのはリハーサルだったのだ。
「時代が時代だから、ぼんやりしてみたいと思うのかもしれませんねえ。昔はそういう時間があったような気がします。仕事中でもね。休憩時間じゃなくてもなんとなくぼんやりできるタイミングがあった。今でもやっておられるかたがおられるかもしれませんがね、昔

より状況は厳しくなった。だから、ぼんやりに憧れるのかもしれませんねえ」

秘書は、大丈夫だと思った。

「ぼんやりできない時代にぼんやりしていたのでは餌食になります。まあ、仕事中にぼんやりしているのも問題ですね。ただ、こういう講演を聞きに来られたときはぼんやりなさって結構です。ほら、居眠りされているかたがいますね。それでいいのです。どうせ会社から命じられて来られたのでしょ。どうせ大した話しじゃないので、休憩していってください」

豪華な会議用ホールは全席リクライニングシートのため、倒して眠り始める人もいた。

「でも、この会社の携帯システム導入パンフはお持ち帰りくださいね。あなたたちのお仕事はそれだけですから、ごゆっくりお休みください」

そのシステムは社員と二十四時間連絡を取り合うことで、仕事の効率が上がり、他社より機敏な動きで出し抜けるというものだった。

「明日は福岡、次は鹿児島です」

「熱がはいらんよ、この講演は」

「大丈夫です。誰も聞いていませんから」

了

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2513m/

ぼんやり

2010年10月15日23時25分発行